

第25回 京都の素敵な宿泊旅[1]

2026 2/11~12





60回記念
京の冬の旅

非公開文化財特別公開

京の冬の旅

方広寺

Hoko-ji Temple

2026年1月9日(金)〜3月18日(水)
10時〜16時30分(16時受付終了)

再入場はできません

公益社団法人 京都市観光協会

方広寺の釣り鐘

千年の京都というけれど
応仁の乱でほとんどが
焼き尽くされたので
実際のところ

京都には古い建築物が
ほとんどないのです。

調べると

信長、秀吉、家康時代以降に
建てられた建物が
今の京都らしい景観を
作っているのです。

今回は、秀吉・家康時代の
香り、京の大仏と二条城を
めぐる旅を計画しました。



京都へ
大久保駅から
(快速)
西明石乗り換え
(新快速)
山科駅へ

京都へ

地下鉄山科駅から
(地下鉄)

東山駅へ

人の多い京都駅を
避ける裏技です。

東山

蹴上

御陵

JR山科

山科

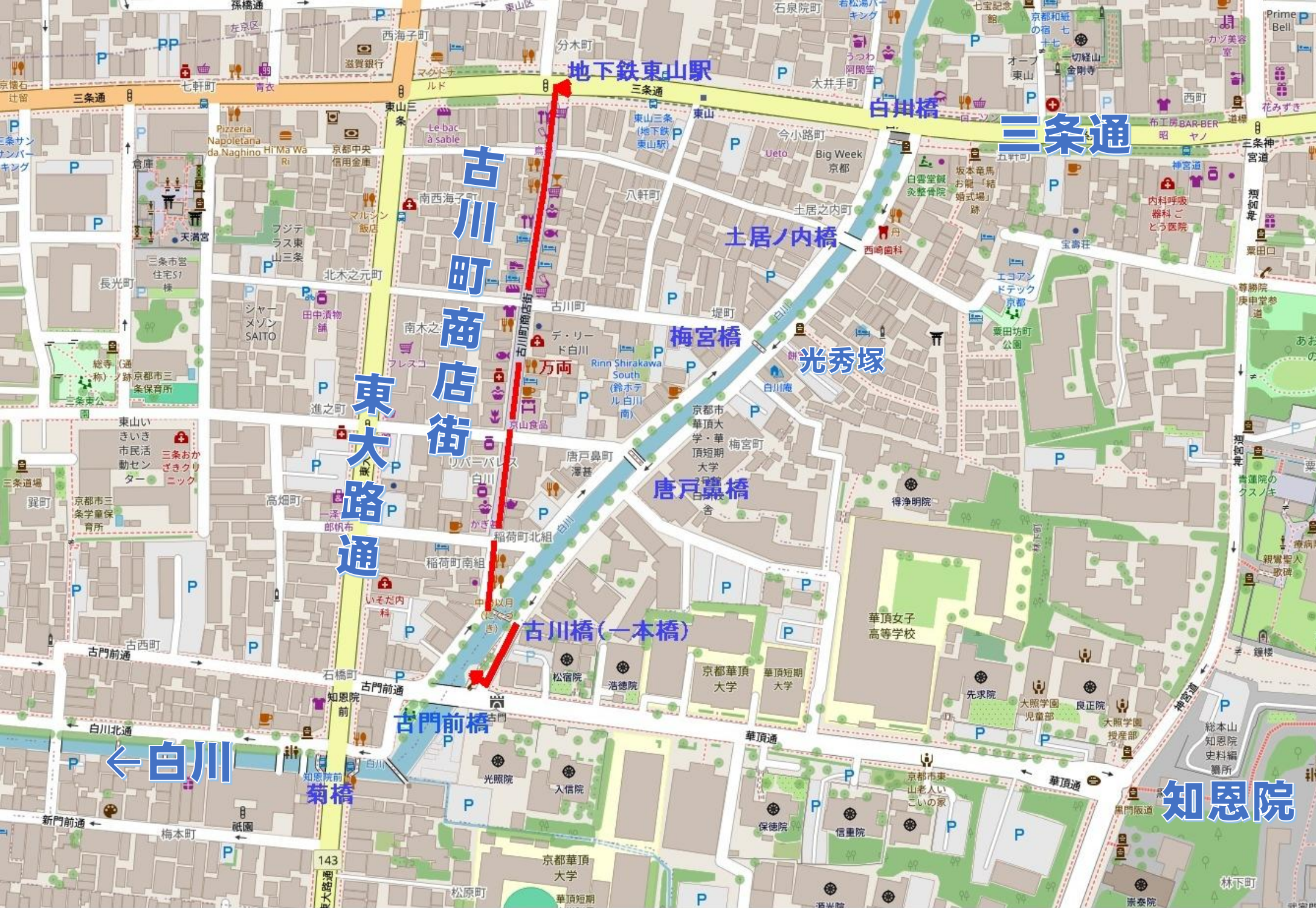




古川町商店街

「京都地検の女」
でおなじみの
商店街。

京へ入る
東の玄関口の
商店街である。



古川商店街周辺詳細図

白川橋 土居ノ内橋 梅宮橋 唐戸鼻橋 古川橋(一本橋) 古門前橋 菊屋橋 狸橋 有洛橋 新門前橋 新橋 巽橋 大和橋

古川町
東海道の終点は
京都三条大橋です。
地図の三条通を左に
行くと鴨川に架かる
三条大橋でした。
また、北からの
若狭街道が
三条通と直行する
場所なので
昔の京都の範囲は
鴨川まででしたが、
江戸初期(1666年)に
ここも京の範囲と
なりました。



三条通白川橋
ひだり
知恩院 祇園 清水道



古川商店街

ここは知恩院の門前、
そして、南に下れば、
八坂神社、清水寺など
有名社寺があるのに
観光客が少なく
京都庶民の
商店街です。
ここにある「万両」で
食事しました。





「加藤治子」が古川町に!!
 〈京都地検の女〉より

万両で食事

ここでのランチは
 基本の「おばんざい」に
 好みの一品の
 組み合わせです。
 先代が揚げ物屋を
 していたので、
 「とんかつ」や
 「コロッケ」が
 うまそうでした。





万両で食事

食後に
コーヒも
付いていました。

なかなか
良かったのですが
開店が正午。

11時過ぎに
店についたので
荷物を置かせてもらい
近くの白川の流れに
向かいました。



白川の本橋

比叡山「千日回峰行」の

行者が満行達成を

元三大師が

本尊である

尊勝院に参り

報告する。

その時に渡る橋が

写真の細い石橋である。

尊勝院、栗田神社は

この橋からは近い。

（古川町は栗田神社の

氏子地である。）

←みな、

行者のごとく

あるくなり。





梅宮橋

一本橋に似ているが
やや 幅が広い



明智光秀の首塚
梅宮近くの
「餅寅」という
菓子屋が
管理している。

明智光秀の塚

天正二〇年（一五八二年）六月二日、明智光秀は本能寺（下京区）に宿泊していた主君・織田信長を急襲し、自害させました。しかし光秀は、備中高松城（岡山市）から引きあげてきた羽柴秀吉（豊臣秀吉）と、十三日に山崎（天王山）で戦って敗れ、わずかな家臣とともに近江の坂本城をめざして逃れます。そしてその途中、小栗栖（伏見区）の竹藪で地元の農民に襲われて重傷を負い、自害して家臣に首を打たせたといわれています。

光秀の首は、家臣によって隠されたといわれます。ですが吉田兼見という公家が記した日記「兼見卿記」によると、光秀の首は十五日までに発見されています。十八日からは、粟田口（左京区）で重臣の首とともに晒されました。晒されたのは数日で、二十二・二十三日には近くに埋め、塚を築いたことも記されています。

実際、「雍州府志」や「都名所図会」など、江戸時代の京都について記した地誌類には、その塚が蹴上付近にあり、三条通北側の人家の裏側にあると記されています。多くの書物に記されていることから、当時よく知られた名所であったことがうかがえます。

その後、江戸時代中期の安永・天明初年ごろ（一七七〇〜一八〇〇ごろ）に、蹴上の塚にあった石塔婆がこの地に移されてきました。以来、この地が、明智光秀を吊う地として知られるようになり、光秀の首もここに埋められたと伝えられています。

また明智光秀を吊う場所は、ここ以外にも、小栗栖の明智藪・胴塚があります。

京都市

Tomb of Akechi Mitsuhide

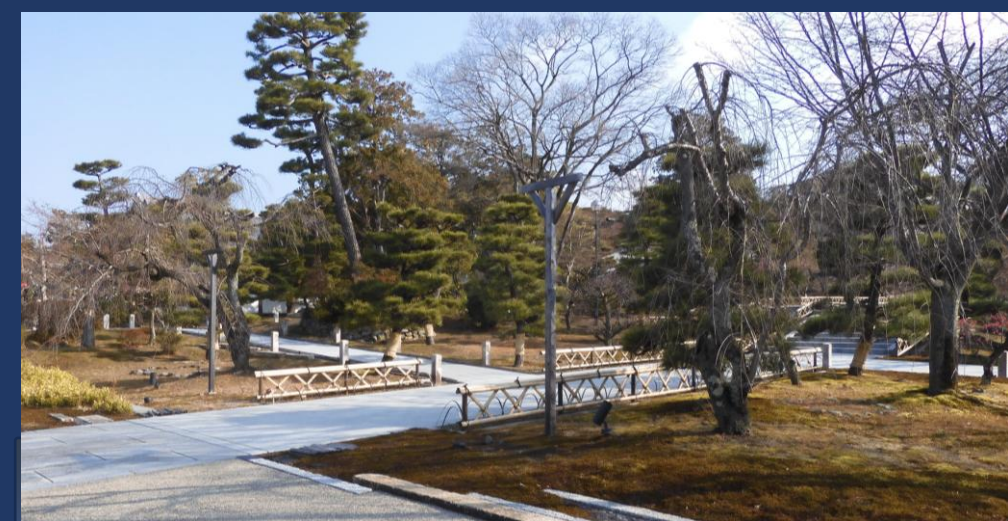
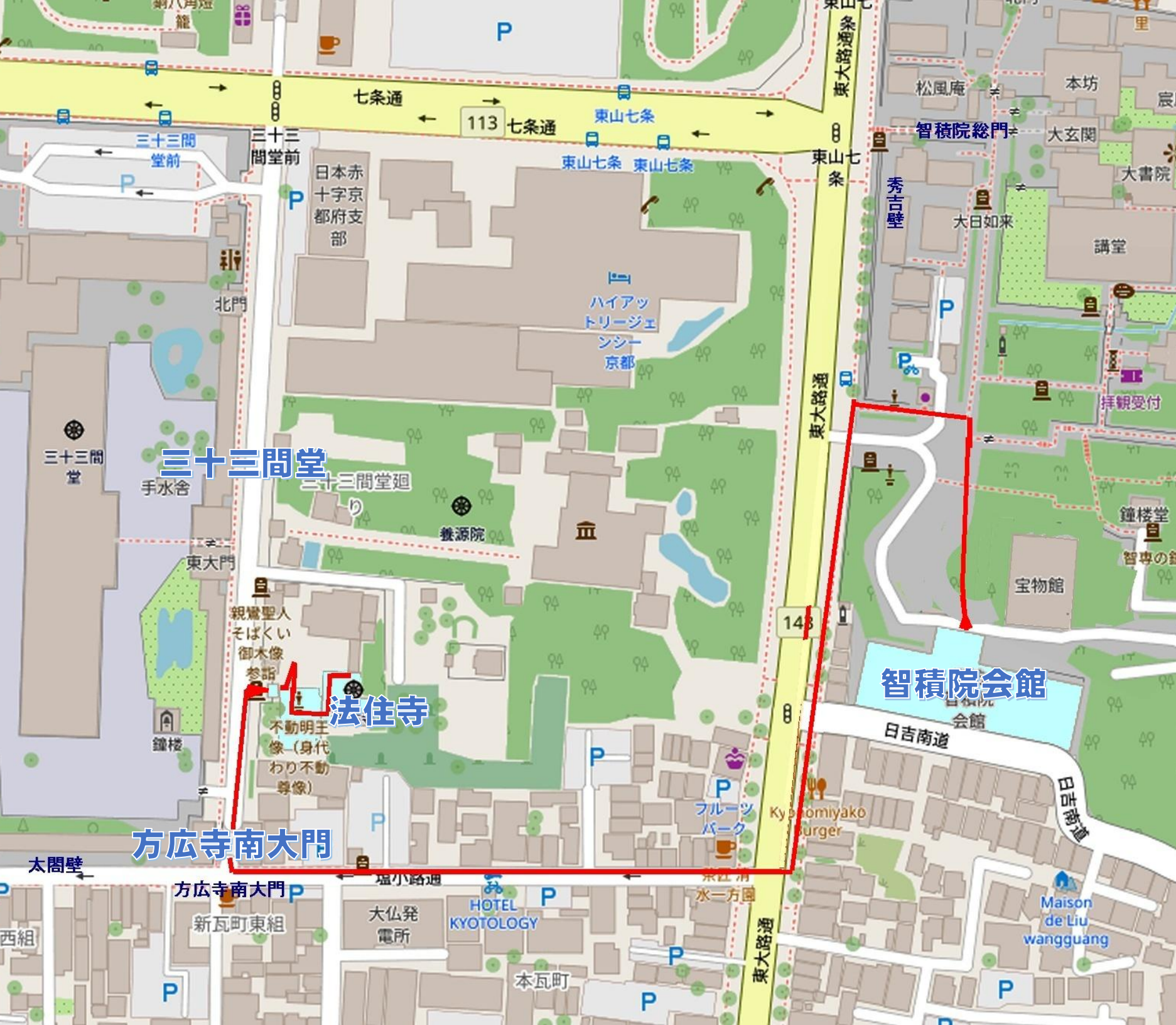
In 1582, Akechi Mitsuhide, one of Oda Nobunagawa's own generals, suddenly attacked him at Honnō-ji temple, but he in turn was defeated by Toyotomi Hideyoshi at Yamazaki (山崎). Toyotomi's victory. One story goes that while fleeing to Sakurano Castle in Ōgino, Mitsuhide was attacked by samurai in a bamboo thicket at Ogino. Severely injured, he performed seppuku, and his head was taken struck off by one of his retainers.

明智光秀之塚

1582年、明智光秀は本能寺で織田信長を突然襲撃した。本能寺で織田信長は明智光秀に敗れた。光秀は近江の坂本城を目指して逃げ、伏見区小栗栖の竹藪で地元の農民に襲われて重傷を負った。自害して家臣に首を打たせたといわれている。



古川商店街
(徒歩)
知恩院前
(バス)
東山七条
(徒歩)
智積院



智積院の本堂と前庭

智積院

智積院に一旦荷物を預け
午後の歴史散歩に出かけた。



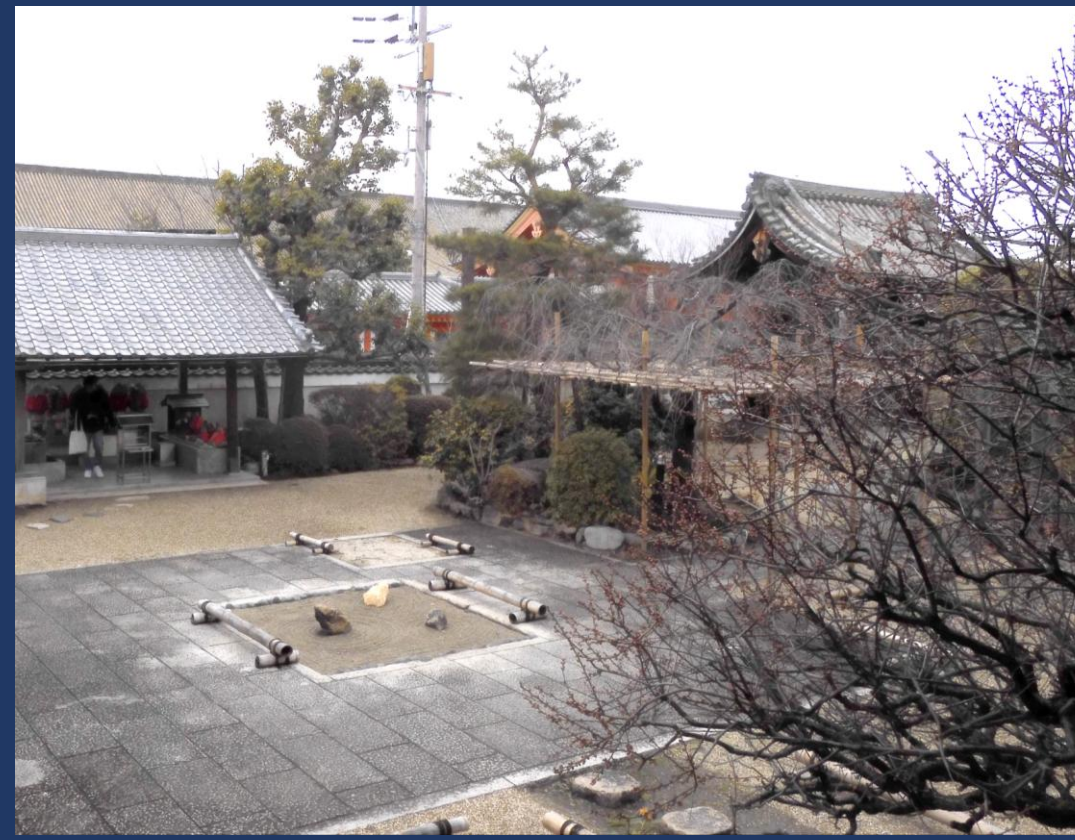
通称「^{たいこうべい}太閤塀」と呼ばれる^{ついでい}築地塀と南大門は、ともに^{とよとみひでよし}豊臣秀吉
ゆかりの桃山期の気風にあふれた重文・建造物である。



法住寺の山門

法住寺

平安末期には
院政を行った
後白河法皇の
広大な御所があり、
それを
「法住院殿」と呼んだ。
法王没後は、
殿の建物は荒廃し
法王の陵を守る
寺だけが残った。





法王陵の門

法住寺

元来、後白河法皇の陵と
一体であった寺であるが
神仏分離政策のため
明治期に陵と寺は
切り離された。

三十三間堂の観桜様も
法王の陵にを向かって
置かれている。

三十三間堂も
法住殿の一部として
建てられたからである



元来、一体であった「陵墓」と「寺」が白壁で分けられている



日本唯一の千体観音堂

正式には蓮華王院(国宝)といい、長寛2年(1164)鳥辺山麓(現・阿弥陀ヶ峯)の後白河上皇・院政庁「法住寺殿」の一画に平清盛が造進した。約80年後に焼失したが、すぐに復興に着手し文永3年(1266)に再建された。その後、室町・桃山・江戸そして昭和と4度の大修理により700余年間保存されている。長いお堂は和様の入母屋・本瓦葺きの「総檜造り」で約120メートル。正面の柱間が33あるところから「三十三間堂」と通称され、堂内には1001体もの観音像がまつられる。また、見落としがちだが境内・南の通称「太閤塀」と呼ばれる築地塀と南大門は、ともに豊臣秀吉ゆかりの桃山期の気風にあふれた重文・建造物である。



三十三間堂

拝観料を払って
敷地に入ると
山伏による
護摩焚き
法要が
行われていた。





三十三間堂(蓮華王院本堂)
法住院殿の一部として
平清盛が建て、後白河法皇に
寄進したものである。
建物の中に入ると
あまりにも多くの観音様の
お出向かいに圧倒され、
観音様と対峙するのは
難しいと感じた。
とにかく 仏の多さに、
頭の中が必死の防戦、遂に
「無」になる心地がした。



十一面観音



無限の慈悲・千体の観音立像

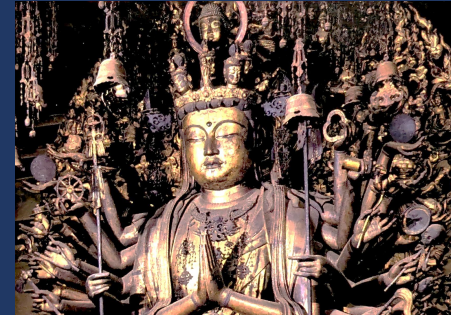


十一面觀音



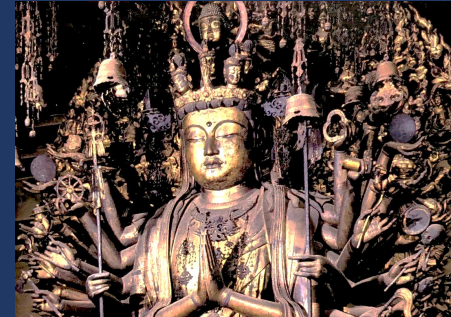


十一面觀音



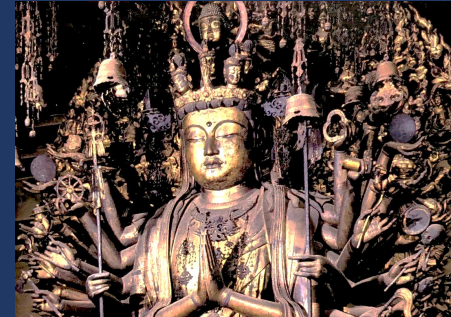


十一面觀音



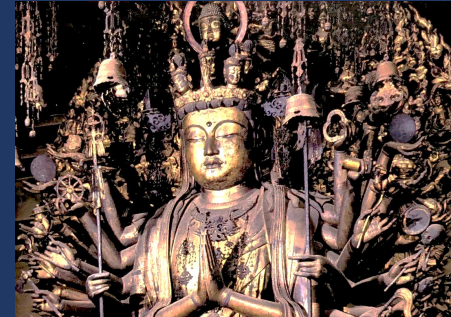


十一面觀音



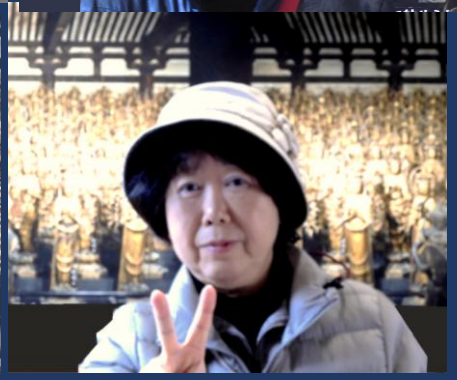
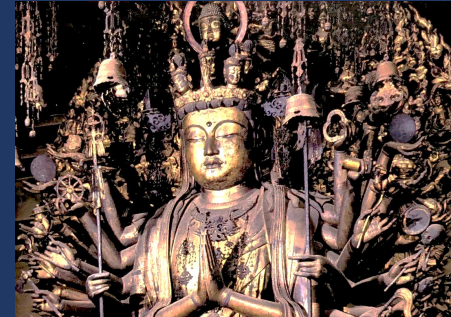


十一面觀音



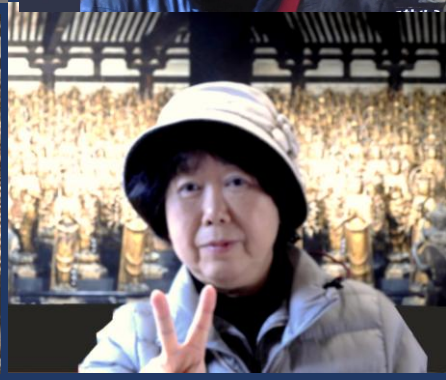


十一面觀音





十一面觀音



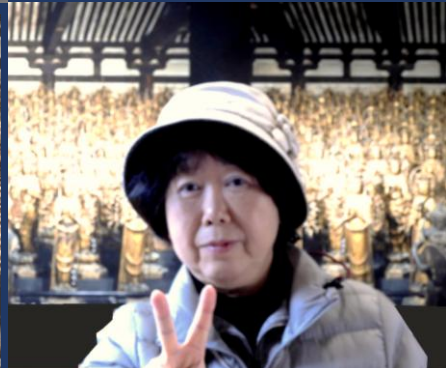
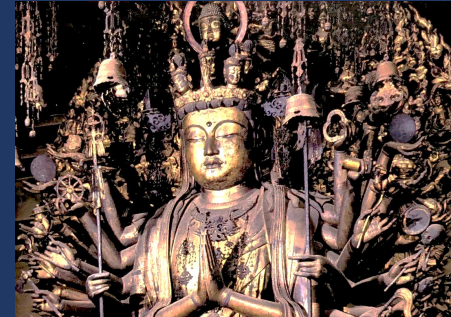


十一面觀音





十一面觀音





十一面觀音





国宝観音二十八部衆像



国宝雷神と風神像

三十三間堂

観音以外の仏たち



京都国立博物館

特別展がない時、

70歳以上は

入館無料。

それに達して

いない方は

700円

払って入館。

今回は

時間がないので

- ・彫刻「考える人」

- ・茶室「堪庵」

および庭園

を中心に

徘徊しました。



「考える人」
何時来ても
このポーズ。
しかし、
正確に真似よ
といわれても
再現できない形











智積院へ帰る

**実は、秀吉の時代、
法住寺**

三十三間堂

**京都国立博物館
すべてが、京の大仏の
境内地だったのです。**



智積院会館に泊まる

智積院は、根来寺にあった寺、
真言宗智山派の総本山。
今回のは宿坊体験でした。



(2階)・3階

No. 205 号室

智積院会館



智積院茶寮

桔梗



夕食(精進料理)





【朝のお勤め開始時間について】

- ・ 朝のお勤めの開始時間は、毎日 6 時 00 分からとなりました。

※冬期時間（12～2 月）は廃止となりましたのでご注意ください。

参拝希望の方は、5 時 40 分までに 1 階ロビーにお集まりください。

【Regarding the Start Time for Morning Services】

- ・ The start time for morning services is now 6:00 AM daily.

※Please note that winter hours (December to February) have been discontinued.

Those wishing to attend services should gather in the first-floor lobby by
5:40 AM.



朝の勤行

2月なのに

ロビー集合は

5:40です。

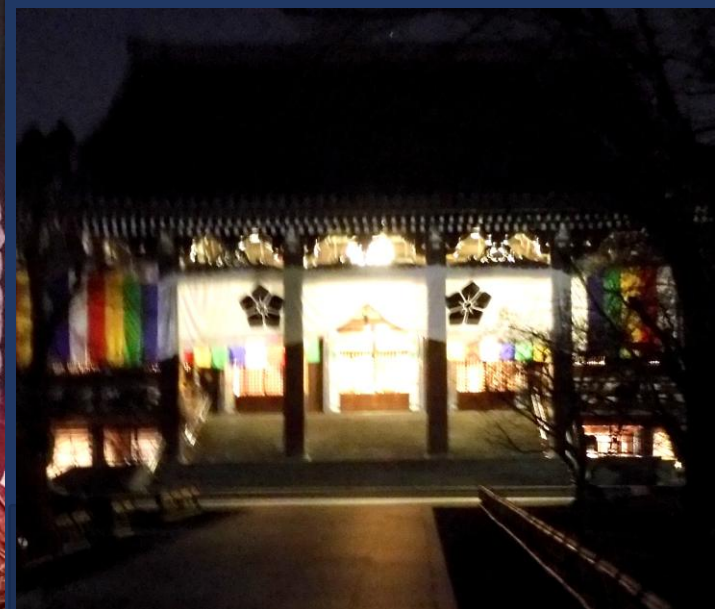
ごぉ〜ん

朝の勤行

2月なのに

ロビー集合は

5 : 40です。



朝の勤行

2月なのに

ロビー集合は

5:40です。



朝の勤行

6時から

金堂で

「静の勤行」

その後

明王殿で

「動の勤行」

が行われます。



朝の勤行〈1〉 金堂での「静の勤行」が終わり、寒い中 明王殿に急ぎます

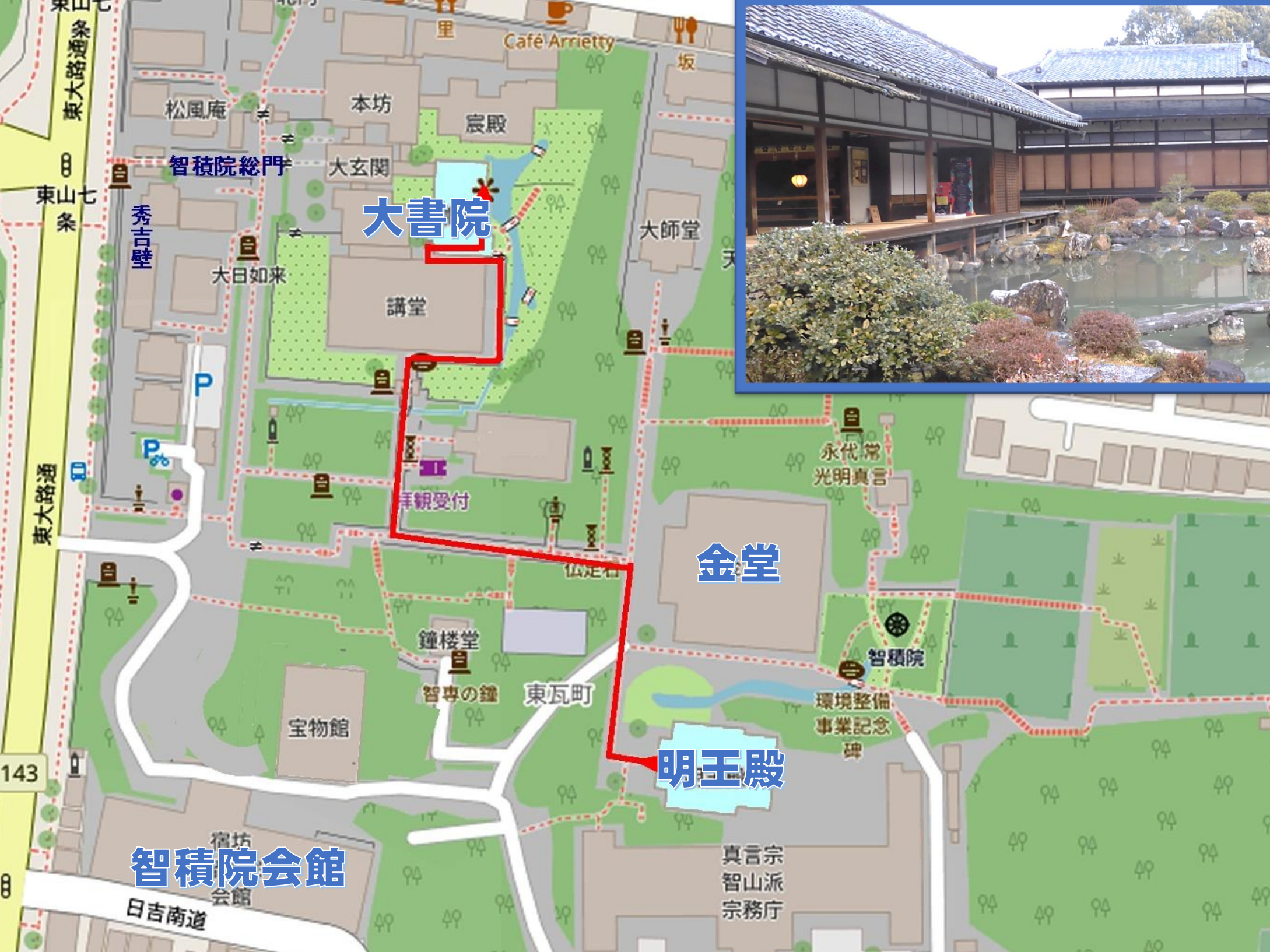


朝の勤行〈2〉 明王殿堂での「動の勤行(護摩焚き・太鼓)」に満足げです



朝の勤行

智積院は智山派の
総本山で修行道場を
兼ねています。
それゆえ、多くの若い
修行僧が勤行に参加。
多数の声が合わさった
声明が聞けました。



庭・大書院拝観

朝の勤行が終わると
明るくなって
いました。

若い修行僧の
案内で東山随一と
いわれる庭園と
大書院を
拝観しました。



廬山・長江の庭

山をうまく使った庭は
中国の廬山と長江を
模している。



廬山・長江の庭

池の水の濁りも

長江に似せるために

泥の中に鯉を

棲まわせている。

「利休好みの庭」とも

いわれるが、没後の庭。



大書院の「桜図」
大書院の縁側が
そのまま、庭を
楽しむ場所で
あるが…、
振り返ると
長谷川久蔵の絵が…



大書院の「楓図」

ここの襖や壁は、
当時の色合いで
描かれた模写で
飾られている。





宿舎にもどり朝食
帰りに、もう一度
庭園を眺めた。
来年から宿泊者
無料拝観は
なくなるとのこと



本堂近くで
桜はまだだが
梅が咲いていた。
作務を終えた
若い修行僧が
本堂から
来たので
しばし談笑。



智積院 まだ寒い如月の朝



ロビー周辺
談笑するには
椅子が少ない

朝食を待つ
人々



↑ きれいに
納まったお碗
(根来塗か?)

朝食(精進料理)

栄養的にも
量的にも
これで十分です。
合掌。



興教大師(智山派の宗祖)



大日如来(密教の中心仏)



弘法大師(真言宗の宗祖)



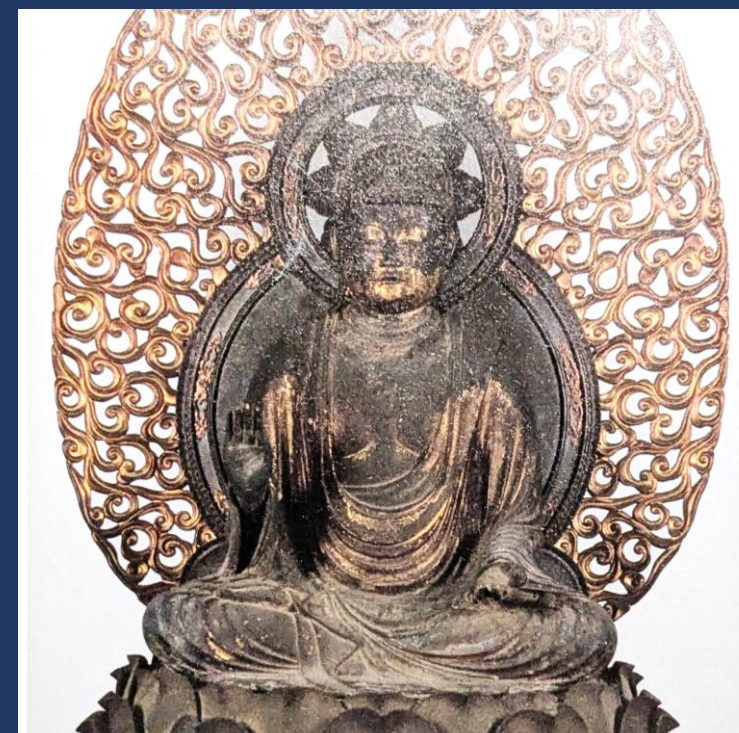


宝物館へ

智積院の

本坊あたりの建物は、
秀吉の遺児・鶴松を
吊う祥雲寺であった。
その祥雲寺の
壮大な客殿を
飾っていたのが
長谷川一派の描いた
障壁画である。

その後
江戸幕府から
祥雲寺の寺地を受けた
智積院が障壁画の
所有者となったのです。



宝物館

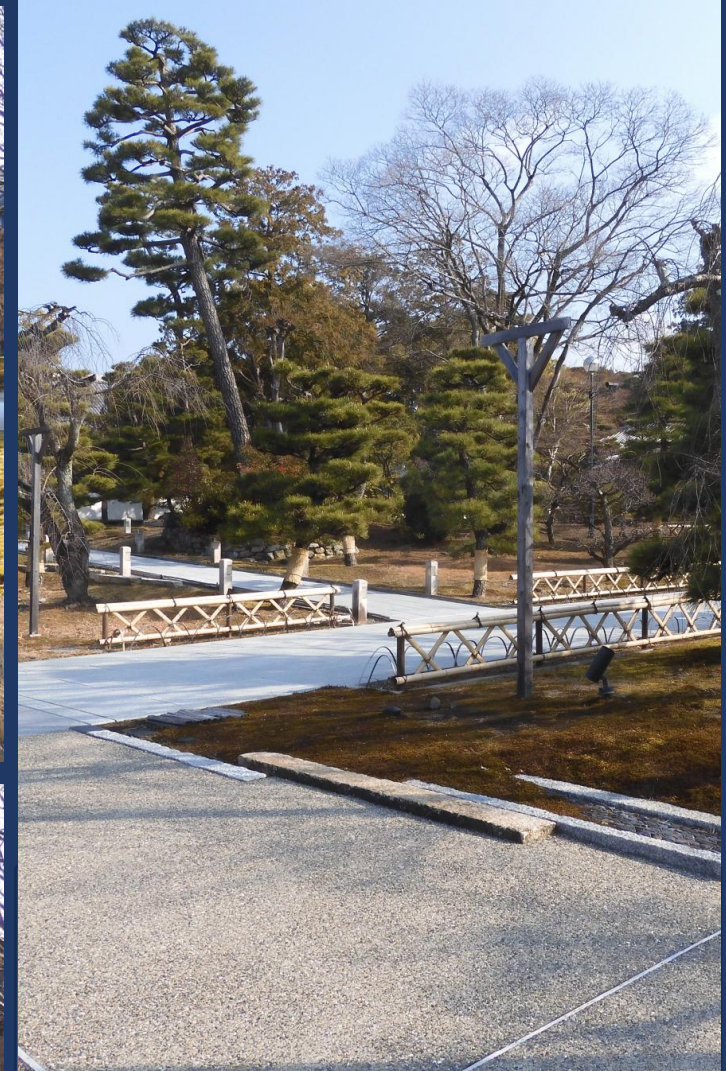
等伯親子が描いた
桜図・楓図が国宝。
よって、このような
頑丈な建物が
近年完成した。

真言宗智山派 総本山智積院

2026/02/12(木) 02-052899-01



智積院を去る
宿泊だけではない。
朝夕の精進料理も
おいしかったし、
朝の勤行も、心に
残る経験になった。



智積院を去る

拝観した庭も

絵画も素晴しかった。

宿泊というよりも
「京」の体験だった。

第25回 京都の素敵な宿泊旅

[2]へ 2026 2/11~12

つづく